

# IV 実施計画

## 第1章 地域の福祉力を高める

地域の福祉力とは、地域住民がお互いの多様性を受け入れ、協働の場を通じて住民が自ら地域のあり方を構想し、構築していく能力のことです。

様々な分野の組織、関係機関と地域住民が、互いに地域内の問題を共有しながら連携することで、課題を早期に発見し、解決や予防に向け対策を講じる仕組みが機能していることが重要です。

また、総合的で切れ目のない連携と、より身近な地域内での支え合いのネットワークの構築のため、地域ごとのニーズに合わせた取り組みが求められています。

近年では、行政の力や制度だけでは解決しにくい、複合的に問題が絡んだものや、細分化し対応が難しいケースなどが増えており、多元的でより細やかな地域の実情に応じたつながりを形成するとともに、住民が主体的にお互いの暮らしを支え合い、継続的に助け合える、地域のもつ福祉力があらためて必要とされています。

財団では、地域住民が主体となって、継続的に活動できるような意識の醸成や人材の確保・育成、居場所づくり、健康増進・介護予防の意識の向上などを通じて地域づくりを進めており、高齢者・障害者・子どもなどあらゆる人への総合的な支援を行ってきました。今後も、それらが抱える複合的な問題や、各分野を横断する課題に対して、様々な取り組みを進めていくことが求められます。

こうした多くの課題に対応するため、財団の医療・福祉専門職と各専門機関等とのネットワークを強化するとともに、今まで培ってきた福祉サービス運営のノウハウを活かして「地域共生社会の実現」に向けて役割を果たし、効果的な支援と地域に根ざしたサービスのさらなる展開・推進に努めます。



## IV 実施計画

### 1 地域を支える人材の育成と活動の支援

地域活動の担い手不足や、新たな人材の発掘は、岡山市でも多くの地域で課題となっており、市民一人ひとりが住み慣れた地域で、できる範囲の役割を担い、関わることでできる機会を創出することが求められています。

財団はこれまでも、地域の福祉力向上のため、福祉や介護の技術や知識を習得する講座や、ボランティア等を養成する講座、また、育児に関する知識や子育てに役立つ講座など年間約100講座以上を実施しており、数多くの方に参加いただいています。

そして、次代を担う子どもたちが健康で情緒豊かに育つため、また、高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するために、地域全体で支えるまちづくりを支援しています。

今後も、地域で活躍できる福祉人材を創出する機関として、情報・技術・知識等を持った地域を支える人材を幅広く育成していきます。また、事業を適宜見直し、改善しながら地域との連携を強化することで、地域ニーズに対応した取り組みを進めていきます。

#### 重点取り組み項目

##### ○地域とつながり活躍できる人材の育成

##### 福祉人材養成機関としての新たな仕組みの整備（新）

現在実施している福祉人材養成に関する講座において、研修内容だけでなく、運営方法や広報、システム構築など、これまでの講座運営にとらわれない多角的な検討を行うことで「福祉人材養成機関」として質の高い福祉専門職の養成を目指します。

##### ボランティアの育成と地域での活動支援

手助けを必要とする人々への支援につなげるため、誰もが安心して生き生きと暮らせるまちづくりを担う人材を育成します。障害者や子育てを支援する講座等、各種人材養成講座を引き続き推進するとともに、岡山市社会福祉協議会等とも連携しながら、地域で継続的にボランティア活動が行えるよう支援する仕組みを作ります。

##### 地域ニーズを反映させた、即戦力となる人材の育成や講座の実施

地域団体・組織や企業との交流の機会に積極的に参加するとともに、財団がもつ医療・福祉専門職の現場力を活かしながら、地域ニーズを反映させた、即戦力となる地域人材の育成や講座の実施につなげます。

## ○子どもが地域社会とつながる活動の支援

### 子どもとその健全育成に資する団体等へ活動機会の提供（新）

子どもと地域がつながりを持てるよう、子どもの健全育成を目的に活動している団体や、地域住民等がボランティアとして活動できる機会を提供します。

### 子どもを地域の一員として育てるための支援

財団の施設やイベント等において、地域の中高生のボランティアをしたいという意欲に応じた積極的な受け入れを行い、子どもたちが地域の一員として関わり、地域の人と人とのつながりや助け合いの大切さを理解しながら社会体験ができる機会を提供します。

## ○認知症への理解を深める活動の支援

### 安心して通い続けることができる生活の場を活用した人材の育成

認知症等の状態が変化しても通い慣れた場に安心して通い続けることができるよう「地域の介護予防教室」や「あっ晴れ！もも太郎体操」の会場等でも認知症サポーター養成講座等を開催し、理解者の輪を広げます。また、地域だけではなく、企業や学校等においても認知症サポーターを養成し、地域全体で地域を支える人材を育成します。

### 地域の支え合い活動の支援と人材の育成

関係団体と連携し、地域住民の支え合い活動の支援や認知症サポートリーダーの活動を支援することで、住み慣れた地域で生活を継続するための住民相互の支えあいのまちづくりを推進する人材を育成します。



地域人材養成講座

## IV 実施計画

### 主な事業

事業分類	実施事業
◆福祉・健康・生涯学習推進事業	ボランティア・地域活動人材養成事業
	福祉人材養成事業
	岡山市手話奉仕員養成事業 他
◆児童福祉推進事業	児童館管理運営事業
◆地域包括支援事業	認知症高齢者及び家族への支援事業

### 目標設定

指標	基準値 (H30)	目標値 (R7)
■質の高い福祉人材の養成 (福祉人材養成講座等の受講者)	2,581人	4,000人
■地域を支えるボランティアの養成	286人	500人
■認知症サポーターの養成人数	3,510人	4,200人



## 2 地域とつながる福祉の拠点づくり

財団では、市内6か所に設置されたふれあいセンターや岡山市ウェルポートなださきを、高齢者・障害者・子どもなどあらゆる人が、暮らしと生きがいをともに創り高め合う地域福祉の拠点施設として活用する必要があると考えます。

そのため、地域住民や各種ボランティア団体が協働して行う誰でも気軽に参加できる催しや、高齢者・障害者・子どもなどあらゆる人を対象とした各種講座等、財団の強みを活かした独自の取り組みを実施してきました。

引き続き、地域共生社会の実現のために、ふれあいセンターや岡山市ウェルポートなださきを、誰もが集うことのできる「通いの場」として定着を図り、地域の福祉拠点としての役割を、さらに強化・推進していきます。

また、ふれあいセンター5館で運営しているふれあい児童館では、地域子育て支援拠点としての役割も担っており、交流の場の提供や、子育ての相談・援助・情報提供だけでなく、子育て家庭が孤立するのを防ぐため、地域の関係機関や専門機関との連携も強化しています。

令和2年度から開始する放課後児童クラブの運営では、今まで培ってきた子育て関連事業の経験を活かし、子どもが健全に育つ居場所づくりをより一層推進していきます。

一方で、地域住民の健康寿命延伸や住民相互の支え合い体制の強化、居場所づくり等の課題の解決に向け、医療施設・福祉施設などの身近な機関と連携し、財団に所属する専門的知識を有した人材を地域で活用しながら、地域における拠点づくりも積極的に行います。

### 重点取り組み項目

#### ○健康増進の拠点づくり

##### 健康増進や介護予防のための活動場所の提供（新）

「あつ晴れ!もも太郎体操」「ストレッチ体操※1」などを用いて、ふれあいセンターや岡山市ウェルポートなださきを拠点とした介護予防活動団体の定期的な通いの場の創設を推進します。

##### 施設を活用した健康維持・増進の場の提供（新）

福祉の拠点である身近な施設として、ふれあいセンターや岡山市ウェルポートなださきをより活用してもらうために、会議や催し物での来館だけでなく、健康維持・増進のための場としても利用できるよう施設の活用を推進します。

#### 用語解説

※1 ストレッチ体操（ふれあい健康体操）：市民の健康寿命延伸のため、財団が考案した、ストレッチ体操と筋力トレーニングを組み合わせた体操。「けがの予防」「血行の促進」「疲労回復」の効果がある。

## IV 実施計画

### 他業種との連携による、地域活性型の活動場所の拡大（新）

地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、さまざまなサービスを充実するため健康寿命の延伸・住民相互の支え合い体制の強化・居場所づくりに向け、医療施設・福祉施設などの機関と連携し、介護予防の拠点拡大を図ります。

#### ○生きがいつくりを目指した通いの場づくり

##### ふれあいシニアカレッジやチャレンジ教室等、高齢者や障害者を対象とした講座の実施

高齢者や障害者の生活の質の維持向上や社会活動の機会として、講座や教室を実施することにより、参加者同士が交流し、生きがいつくりを目指す「通いの場」を創出します。

#### ○情報の提供やイベント開催等による集いの場づくり

##### ふれあいセンターを活用した集いの場づくり

各ふれあいセンターにおいて、介護予防・健康づくりから演奏会・映画会など、高齢者・障害者・子どもなどあらゆる人が参加できる催しを実施しています。また、講座受講生の発表会や、ボランティア及び福祉団体に活動の場を提供しています。引き続き、多くの方に利用いただけるよう整備・拡充します。

### 施設を活用した連携事業の開始（新）

財団内他部署との連携、地域の組織機関等との協働による各ふれあいセンターのフリースペース等を活用した事業やイベントを開催することを通して、ふれあいセンターの来館者に向けて財団が取り組む福祉サービスの効果的なPRを行います。

### 誰もが安心して過ごせる場としての環境整備

ふれあいセンター等の市民が利用する施設のバリアフリー化をさらに推進し、誰もが安心して過ごせる場として、利用者視点に立った環境整備に努めます。

また、認知症サポーターステッカーを掲示する等、認知症の人やその家族等が声をかけやすい環境の整備に努めます。



センター外観（岡山ふれあいセンター）

## ○子育て支援と子どもの居場所づくり

### 放課後児童クラブの運営（新）

令和元年より始動した放課後児童クラブ運営の体制確立と、機能強化により、運営の安定化を図るとともに、地域における子ども・子育て世帯への支援の充実を図ります。

### 子育てに関する講座やイベントの実施

子どもの健全育成に資するイベントや親子参加型の講座を実施し、子どもの活動機会を設けることや、児童館や地域で活躍できる子育て支援のボランティアを養成し、その活躍の機会を設けることで、子どもたちが健全に安心して過ごせる居場所を充実させます。



児童館（幼児の会）



児童館（子育てサロン）

## IV 実施計画

### 主 な 事 業

事業分類	実施事業
◆福祉・健康・生涯学習推進事業	子ども・子育て支援事業
	生きがいつくり支援事業
	障害者支援事業
	健康づくり支援事業 他
◆児童福祉推進事業	児童館管理運営事業
	放課後児童クラブ事業
◆地域包括支援事業	認知症高齢者及び家族への支援事業
◆高齢者・障害者福祉推進事業	介護予防センター事業
	在宅福祉運営事業
◆施設管理運営事業	岡山市ふれあいセンター管理運営事業
	岡山市ウェルポートなださき管理運営事業

### 目 標 設 定

指 標	基準値 (H30)	目標値 (R7)
■高齢者・障害者の通いの場づくり (高齢者・障害者対象の講座・イベント等参加者数)	9,072人	11,000人
■児童館利用者の満足度	—	90%
■施設利用者の満足度	83%	90%



### 3 地域と取り組む介護予防・健康寿命の延伸

誰もが住み慣れた地域で生活・活動するためには、出来るだけ長く健康な状態を維持し、老化から来る衰えをあらかじめ予防していく必要があります。

財団では、介護予防センターにおいて、専門職による運動機能、口腔機能の向上などを取り入れた教室を実施するとともに、「あっ晴れ!もも太郎体操」を地域主体で取り組める介護予防として普及・啓発しています。

また、各ふれあいセンターでも、高齢者に限らず、運動習慣のきっかけづくりや健康意識の向上のために、市民が気軽に通える初心者向けプログラムの講座や講演会の実施、運動施設（アスレチックコーナー等）の運営などを行い、市民の健康寿命の延伸に取り組んでいます。

#### 重点取り組み項目

##### ○介護予防事業の推進

##### 機能強化による事業の推進

介護予防センターの介護予防に資する地域づくりのノウハウと地域包括支援センターの地域の実情に応じて収集した情報をもとに連携を強化し、高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチを充実させ、更なる介護予防に向けた事業展開や地域づくりの支援に繋がります。

##### 「あっ晴れ!もも太郎体操」の普及・啓発

年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、身近な場所で仲間づくりを行いながら、介護予防活動を継続できるきっかけとして「あっ晴れ!もも太郎体操」のさらなる普及・啓発を行います。

##### 介護予防センター機能の拡充

介護予防センターでは、フレイル予防<sup>※1</sup>や社会参加を通じた介護予防の推進、住民の通いの場の充実等、更なる介護予防普及・啓発のために、地域とのつながりやネットワークを構築しながら、所属する専門職の知識を活かした介護予防の機能強化や支援機能の充実を図ります。

#### 用語解説

※1 フレイル予防：フレイルは健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のことで、要介護状態に進まないよう、適切な治療や予防を行うこと。

## IV 実施計画

### ○心身の健康意識の醸成

#### 健康づくり講座において、効果の分析・検証のためのアンケートやデータの収集（新）

モニター講座やアンケート調査の実施により、健康意識の改善・効果等について分析し、検証を行います。検証を継続的に行うことで、効果的な主催講座による市民の健康寿命の延伸を目指します。

#### 市民の健康づくり支援を目的とした財団組織連携会議の実施（新）

財団内の医療・福祉専門職が連携し、健康に関する講座等に積極的に関わることで、市民への健康づくりプログラムの内容充実・拡充を図り、より効果的なプログラムの提供を行います。

### ○継続した介護予防・健康づくり

#### 切れ目のないサービスの提供

健康づくりを目的とした講座、運動施設、介護予防センター、デイサービス等の各種サービスの連携を強化することで、住民が自分の状態にあった健康維持・増進サービスを、継続的に切れ目なく利用できるように提供します。



健康づくり支援講座



「あっ晴れ!もも太郎体操」

## 主な事業

事業分類	実施事業
◆福祉・健康・生涯学習推進事業	健康づくり支援事業
	アスレチックコーナー運営事業
	高齢者支援事業 他
◆高齢者・障害者福祉推進事業	介護予防センター事業
	通所介護事業 他

## 目標設定

指 標	基準値 (H30)	目標値 (R7)
■あつ晴れ!もも太郎体操 実施団体数	300団体	400団体
■フレイル対策の普及啓発活動	—	330回
■介護予防・健康寿命延伸への取り組み (健康づくりや介護予防に関する講座やイベント参加者数)	142,330人	145,000人

